

教室と教出を結ぶ

# リンク



ソメイヨシノとメジロ

## 目次

---

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 授業力向上を図るカリキュラムマネジメントのすすめ …………… 宮下 治 | 2 |
| —中学校における校内理科授業研修会の実践をととして—          |   |
| 新連載 気になる現場に突撃取材!! 国立科学博物館編 ……………    | 8 |

---

教育出版

# 授業力向上を図る カリキュラムマネジメントのすすめ

— 中学校における校内理科授業研修会の実践をとおして—



順天堂大学国際教養学部 教授  
宮下 治

## 校内授業研修会の現状

日本の学校は、「授業研究」の校内研修会が盛んです。参加する多くの教員が授業観察をしながら、気づいた点などメモをとる光景をよく見かけます。こうしたわが国の同僚性に基づく校内研修、とくに研究授業（授業研究）は、「レッスンスタディー（Lesson Study）」とよばれ、欧米やアジアを中心に世界的に普及してきています<sup>1)</sup>。つまり、日本の授業研究は素晴らしいと諸外国から評価されているのです。確かにわが国の学校における校内授業研修会は、教員相互が授業について協同的で具体的な協議を重ね、よりよい授業内容や授業方法の構築に向けて努力をしているといえます。

一方、校内授業研修会においては、授業担当の教員のみが授業を計画・実施し、評価を受けるなど、一人の教員の授業力向上に止まってしまうことも多く見受けられます。さらに、授業後の協議会においても、司会者・授業者・意見を述べる一部の教員の発言で終わることも多く、とくに若手の教員が意見を述べる機会が少ないという実態も多くの学校で見受けられます。つまり、校内授業研修会に参加しているすべての教員の授業力向上に十分に役立っているとはいえない実態があると思います。校内授業研修会に参加する教員一人一人が積極的に研修会に参加し、一人一人の授業力向上につながる研修会の進め方を構築していくことが急務です。

## カリキュラムマネジメントの重要性

各学校が、それぞれの教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムをつくり、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な課題解決の営みの一つの有力な手段として、カリキュラムマネジメントがあります<sup>2)</sup>。

カリキュラムマネジメントとは、カリキュラム（教育計画および日々の授業、それらの評価・改善）をとおして行う学校づくりともいえます。つまり、学校（授業を含む）としての課題を発見し、昨日よりも今日、一歩でも改善するための課題解決に取り組む発想が前提となります。

ところで、河野はカリキュラムマネジメントを促進するための一つの手法として「概念化シート」を考案し、学校内における現状分析に活用できることを提唱しています<sup>3)</sup>。これからの学校においては、このカリキュラムマネジメントを実践していくことによって、学校経営、学年経営、学級経営、そして何よりも日々の授業そのものがよくなっていくものと考えます。

## 「概念化シート」を用いた研修方法

河野により考案された「概念化シート」を一部改良した様式を図1に示します。ここで紹介する「概念化シート」は、模造紙を横にして、縦軸は「よかったところ」と「気になったところ・疑問点」、横軸は「生徒」と「教師」として、2軸を設けています。

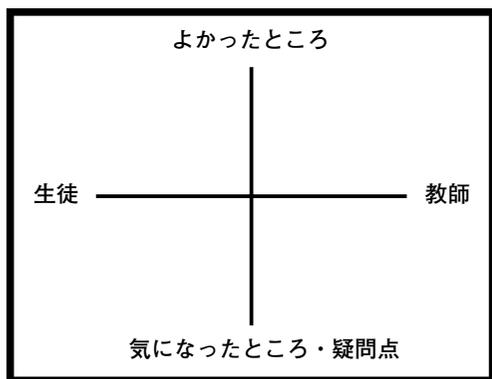


図1 「概念化シート」の様式

「概念化シート」を用いた校内授業研修会は、以下のように進めます。

- ①事前に4～5名のグループをつくっておきます。
- ②各自、ピンクとブルーの付箋紙をそれぞれ10枚ずつ持参し、授業を観察して気づいたことをその場で記入、指導案の展開の部分に貼っておきます。
- ③参観者は授業者による授業の振り返り・反省などを聞きながら、付箋紙に新たに記入しても構いません。
- ④授業観察中に記入した付箋紙を指導案の展開の部分から剥がし、一人ずつ説明しながら付箋紙を「概念化シート」に貼っていきます。
- ⑤貼った付箋紙から、同じものや似たものを集めてまとまりをつくっていきます。まとまりができたなら、わかりやすくマーカーで囲み、そのまとまりにふさわしいタイトル（小見出し）をつけます。
- ⑥「気になったところ・疑問点」について、改善策や今後の指導のあり方についてグループの考えをまとめ、「概念化シート」に書き込んでいきます。
- ⑦各グループから、協議の結果を発表する際、発表者は、授業者を除いてグループでいちばん若い教員が行うこととします。これは、若手教員の大切な学びの機会とするためです。

## 「概念化シート」による 校内理科授業研修会の実践

### 1 事前研修会

実践校：公立A中学校

時間：平日の16:00～16:30

参加者：校長、教頭を含む教員28名全員

#### (1) 事前研修会の概要

「概念化シート」を用いた授業研修会の前日に30分ほど時間をとり、講師である筆者から、翌日の授業研修会における授業観察時の留意点や授業研修会の進め方について説明をしました。

その際に、授業観察時に気づいたところを記録していく付箋紙の使用ルールについて、次のように説明をしておきました。

- ①1枚の付箋紙には事実やアイデアを一つだけ、具体的に書いてください。
- ②抽象化はせずに具体的に書いてください。
- ③質より量、たくさん書き出してください。
- ④グルーピングできない付箋紙の意見も大切にしてください。

### 2 授業観察

#### (1) 観察した授業の概要

時間：事前研修会翌日の13:40～14:30

対象学級：A中学校3年1組（36名）

授業者：B教諭

参加者：校長、教頭を含む教員28名全員

教科と単元：理科（第3学年）「運動とエネルギー」

本時の目標：配線カバーでジェットコースターのモデルをつくることによって、運動エネルギーと位置エネルギーの関係に興味をもち、「二つのエネルギーが移り変わっているのではないか」という仮説を立てることができるようにする。

#### (2) 授業観察の方法

授業を参観した教員各自が、1辺5cmの付箋紙（ピンク10枚、ブルー10枚）をもち、「よかったところ」をピンクの付箋紙に、「気に

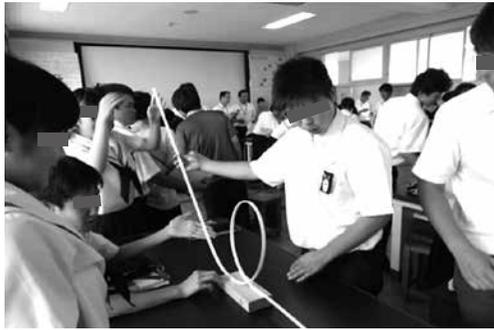


図2 授業観察をする教員と授業のようす

なったところ・疑問点」をブルーの付箋紙に1項目ずつ具体的、かつ端的に記録しました(図2)。

### 3 「概念化シート」を用いた協議会

参加者：校長，教頭を含む教員28名全員

#### (1) 協議の方法

20歳代，30歳代，40歳代，50歳代の教員がそれぞれ含まれるように，4～5名のグループを六つ編成し，記録した付箋紙と「概念化シート」を用いて，各グループで観察した授業について協議（授業分析）を行いました。なお，授業者（B 教諭）はグループには入らずに，各グループを回り質問などに応じてもらいました。

#### (2) 協議会の内容

進行役：筆者

時間：授業観察日の14:50～16:30

- ①授業者（B 教諭）による自評（5分間）
- ②「概念化シート」を用いたグループによる協議の実施（60分間）
- ③各グループによる発表（20分間）
- ④筆者による講評（10分間）
- ⑤校長による挨拶（5分間）

#### (3) グループによる協議のようす

「概念化シート」を用いた協議（授業分析）を，各グループで60分間実施しました(図3)。

4名構成の第1グループ（C：20歳代教員，D：30歳代教員，E：40歳代教員，F：50歳代教員）の協議のなかでは，以下のような特徴のある発話がありました。

ノートをとっていない生徒がいたこと

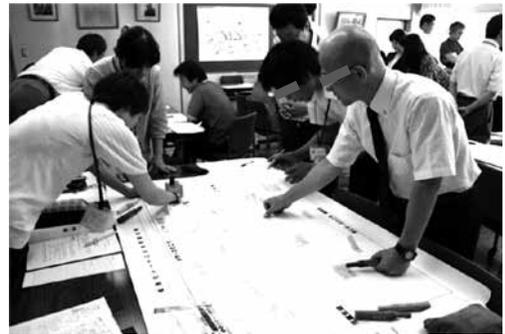


図3 「概念化シート」を用いて協議を進めるグループのようす

に対して，Fは「ノートをとっていないなかったので，教師が声をかけたほうがいいのではないかなと思う。」と教師の指導に対する具体的な改善策を述べていました。そのあとCも「あのときやっぱり声をかけてアドバイスしたほうがよかったと思う。」，「話し合いのタイミングがよくなかったのかもしれない。最初にグループで話し合ってから実験を始めたほうがよかったと思う。」など，教師の指導に対する具体的な改善策を述べていました。

また，Dも「できる生徒に対しての助言はできていたけど，そうじゃない生徒への助言も必要だった。」や，「ジェットコースターのモデルをつくるのに必死になるのではなくて，考える時間を十分とってあげて，助言をすればよかったと思う。」と，同じく教師の指導に対する具体的な改善策を述べていました。

そしてEは，「教師があらかじめ指定した一つのモデルをすべてのグループにつくらせ，その同じモデルで生徒たちに予想させたり実験させたりして，じっくりと考察させたあと，“じゃあ，それぞれのグループでモデルをつくってみよう”といった流れのほうがいいのではないか。目標に沿った予想を立てられるようにどのグループも同じ土台づくりをする工夫が必要じゃないか。」と，授業の進め方そのものについて具体的な改善策を述べていました。

以上のように，C，D，E，Fすべての教員

が、授業改善に向けた意見を表出していることが発話記録からわかったのです。

表1 第1・第2グループ内の協議中の発話回数

| 教員   | 第1グループ | 第2グループ |
|------|--------|--------|
| 20歳代 | 67回    | 40回    |
| 30歳代 | 107回   | 113回   |
| 40歳代 | 126回   | 58回    |
| 50歳代 | 109回   | 126回   |

表1は、60分における協議（授業分析）中の第1グループと第2グループ内の発話の回数を教員ごとに示したものです。

両方のグループともに、20歳代の教員の発話回数は67回、40回と各グループ内ではもっとも少ない状況です。このことについては、協議会終了後に発表を行った20歳代の教員に、協議（授業分析）の感想を聞いたところ、「年代の違う先生方との協議だったが、楽しくできた。普段の聞いているだけの研修会に比べて、自分の考えも多く発言できたと感じている。」と述べていました。つまり、若手の教員にとっては、「概念化シート」を用いた研修方法は自分の意見を発言しやすかったと感じていたことがわかります。

それにしても、従来の校内授業研修会は、司会者・授業者・意見を述べる一部の教員の発言で終わることが多く、とくに若手の教員が意見を述べる機会が少ない状況と比較すれば、若手の教員が60分のなかで40回以上発言をしていることは、協議に積極的に参加していたと捉えることができます。

また、30歳代、40歳代、50歳代の教員にとっても58～126回グループ内で発言しており、「概念化シート」を用いた協議が、各世代の教員の発言を引き出すうえで有効であったと捉えることができます。

#### (4) 若手教員による発表の内容

各グループでいちばん若い教員に、協議（授

業分析）の結果を、作成した「概念化シート」を用いながら発表をしてもらいました（図4）。

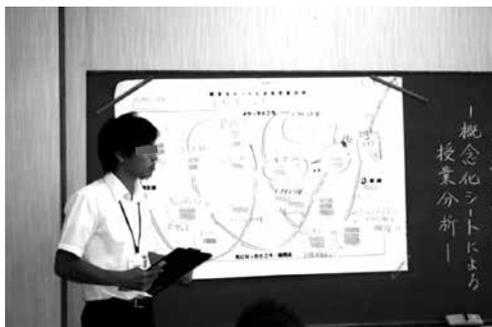


図4 「概念化シート」を用いた発表のようす

表2 発表内容の一部

B先生の、生徒に発表や話し合いをさせるときの技についてですが、A中学校にある三つのルールをもう少し実践していくと、さらに声が大きくなり、話し合いが活発になったりと、よい活動になってくるんじゃないかなと思いました。(ア)

それと、B先生が説明をするときには、すごく素敵な教具がありましたので、その教具を使って説明するとよいのではないかな、と思いました。(イ)

そして、ちょっと予想不十分な生徒も確かにいましたので、実験のときには時間を十分にとるとよいと思います。今日はみんな配線カバーでジェットコースターをつくることに一生懸命になっていて、やっ  
と一周回ったと思ったら、他の班の生徒に“ちょっとそれ貸してくれ”、“自分たちのモデルとつなげてみようぜ”というようなことで、しっかり予想を立てる前に他の班と合同の活動になってしまっていました。もし可能だったら、共通した模型で考えさせると、もう少し位置エネルギーと運動エネルギーについてしっかり考えることができ、予想が十分に立てられたのではないかなと思いました。(ウ)

また、机間指導についても、とても丁寧にされましたが、先生が机間指導されているときはよくても、回られたあとにまたわからなくなってしまって、ノートをとれなくなってしまった生徒もいましたので、こまめに机間指導をするとよいのかなと思いました。(エ)

各グループの発表は3分で行ってもらいました。表2は、あるグループの発表内容の一部です。

発表者は、(ア)で生徒に大きな声で発表するように促したり、話し合いをする際により活発にさせたりするための具体的な方策について述べています。(イ)ではB教諭が説明する際に、教室にある教具を活用することにより教育効果が上がることを提案しています。

(ウ)では実験の予想をしっかりと考えさせるためにも、共通した模型で考えさせるとよかったのではないかと、授業改善に向けた具体策が述べられています。さらに、(エ)ではノートをとれない生徒への学習支援を行ううえでも、教師の机間指導をこまめに行うとよいことを提案しています。

この発表をしたグループには理科の教員はいませんでした。観察した理科の授業に対して、生徒の発表や話し合いへの指導方法、教具の有効活用のしかた、予想を立てさせるための方策、机間指導(形成的評価)のしかたなど、多面から授業改善について発表がなされていたことがわかります。

## 「概念化シート」を用いた 校内理科授業研修会の効果

### 1 研修会終了後のアンケート調査結果

校内授業研修会后に、次のようなアンケート調査を実施しました。

調査対象：校長、教頭を含む教員28名の研修会参加者全員

調査方法：質問紙法

回収状況：28名(回収率：100%)

#### (1) 調査内容と結果

①質問項目1：「概念化シートによる研修では、あなた自身の意見は表出できましたか。」との質問に対し、「とても当てはまる」78.6%、「当てはまる」21.4%と、肯定的な回答が100%でした。表1に示したように、グループ内の60分の発話の回数が、もっとも少

ない教員でも40回あったなど、研修会に参加した教員全員が、自身の意見が表出できたと感じていることがわかりました。

②質問項目2：「今回の研修は授業者自身の授業改善に役立つと思いますか。」との質問に対しても、「とても当てはまる」64.3%、「当てはまる」35.7%と、肯定的な回答が100%でした。授業観察をした教員全員から本授業に関する「よかったところ」と「気になったところ・疑問点」を整理してもらい、改善が必要な点についてはどのように改善をしていけばよいのかなど具体策を示してもらうことができました。そのため、授業者本人も含むすべての研修会参加者が授業を実施したB教諭自身の授業改善に役立ったと考えていることがわかりました。

③質問項目3：「今回の研修はあなた自身の授業改善に役立つと思いますか。」との質問に対しては、「とても当てはまる」53.6%、「当てはまる」39.3%と、肯定的な回答は92.9%でした。各教員が協議のなかで発した授業改善についての意見が、観察した授業だけに関するものだけではなく、意見を表出した教員自身の授業改善にも生かすことができると9割以上の研修会参加者が考えていることがわかりました。

### 2 「概念化シート」を用いた校内理科授業 研修会の効果の概要

カリキュラムマネジメントとしての「概念化シート」を用いた校内授業研修会の効果は、次のようにまとめることができます。

- ①20歳代、30歳代、40歳代、50歳代の各教員が60分の協議のなかで多くの発言をし、積極的に協議に参加できていたこと。
- ②授業改善に向けた意見を教員一人一人が表出しているとともに、参加者全員が自分の意見を表出できたと考えていたこと。
- ③グループ内での協議をとおして、授業改善について主体的に考えることができ、参加者全員が授業者自身の授業改善に役立った

と考え、また、自分自身の授業改善にも9割以上の参加者が役立つと考えていたこと。

## おわりに

カリキュラムマネジメントとしての「概念化シート」を用いた校内授業研修会は、グループ内での協議中も参加者全員が積極的に発言し、授業改善などに対する自分の意見を表出でき、授業者自身の授業改善に役立ったと考えています。また、発表内容からは、観察した理科の授業に対して、生徒の発表や話し合いへの指導方法、教具の有効活用のしかた、予想を立てさせるための方策、机間指導（形式的評価）のしかたなど、多面から授業改善について協議がなされていたことがわかります。さらに、研修会に参加した9割以上の教員が、自分自身の授業改善にも役立つと考えています。このことは、おおむね参加者一人一人の授業力向上につながったと捉えることができます。

なお、本実践では異年齢の教員でグループを編成し協議を実施しました。これは、世代を超えて発言をすることにより、若手教員と経験豊富な教員の双方が刺激し合うことで、教員一人一人の授業改善、ならびに授業力向上につながることを期待したためです。また、授業研修会の前日に30分の事前研修会を行い、翌日の授業研修会における授業観察時の留意点や授業研修会の進め方について説明をしたことにより、協議会は1時間40分でも十分に効果のあるものとなり、有効な研修会を実施することができたものと思います。

以上のことより、「概念化シート」を用いたカリキュラムマネジメントは、多くの中学校の先生方の授業力向上を図っていけるものと考え、実践をお勧めいたします。

最後に、本稿は、自著「校内授業研修会におけるカリキュラムマネジメントの効果に関する実践研究」を参考に新たに書き換えたものであることを付記します<sup>4)</sup>。

## 引用文献

- 1) 秋田喜代美・キャサリン・ルイス。(2008)：「授業の研究 教師の学習—レッスンスタディへのいざない」, 明石書店
- 2) 田村知子(2011)：「実践・カリキュラムマネジメント」, ぎょうせい
- 3) 河野昭一(2005)：「体験活動における自立化と教師の支援 について—『概念化』シートを活用した自己評価・他者評価を通して—」, 鳴門教育大学大学院修士論文
- 4) 宮下治(2015)：「校内授業研修会におけるカリキュラムマネジメントの効果に関する実践研究」, 臨床教科教育学研究, vol.15, No.3, pp79-88

# 気になる現場に突撃取材 !!

取材 File 1



## 国立科学博物館編

教育出版株式会社編集部

### はじめに

中学理科通信リンクに新企画の登場です。

平成28年度版教科書「自然の探究 中学校理科」では、自分たちの住んでいる地域に、博物館や動物園、プラネタリウムなどがあれば、それらの施設を積極的に利用して、学校での学習を広げたり深めたりすることを目的とする「校外の施設を活用しよう」という紙面を新しく取り入れ、さまざまな施設を紹介しています。

この企画では、校外学習にお薦めの博物館や、普段なかを見ることができない工場や研究所などを徹底取材し紹介していく予定です。

教科書に掲載されている施設以外にも、この企画で紹介する施設や工場、研究所なども校外学習の行き先の参考にしてみてはいかがでしょうか。

### 今回の取材先

今回の取材先は東京都台東区上野公園にある国立科学博物館です。

国立科学博物館は1877年に創立された、日本でもっとも歴史のある国立の総合科学博物館です。

そのなかでも今回は、今年4月に新しく生まれ変わった教科書「自然の探究 中学校理科」のテーマである「自然の探究」と関わりが深い展示が多くある、地球館地下3階「自然のしくみを探る」フロアを中心に取材してきました。

地球館は2015年7月14日に北側部分がリニューアルされ、今まで以上に、子どもから専門家までさまざまな人が先端的な科学の世界を楽しむことができるように工夫されています。

### 法則を探る

「法則を探る」のゾーンには、精密天秤やキログラム原器（レプリカ）など、測定や単位に関わるさまざまな展示物があります。アンペア（記号：A）やキログラム（記号：kg）など、七つのSI基本単位について解説されているコーナーでは、単位の定義を説明するパネルや右の写真のように、具体的な使用例を示した体験型の展示物があり、SI基本単位を楽しみながら身近に感じることができるよう工夫されています。



手回し発電機で1Aの電流を発生させるようす

1Aの電流を発生させることは意外と大変です。

## 物質を探る

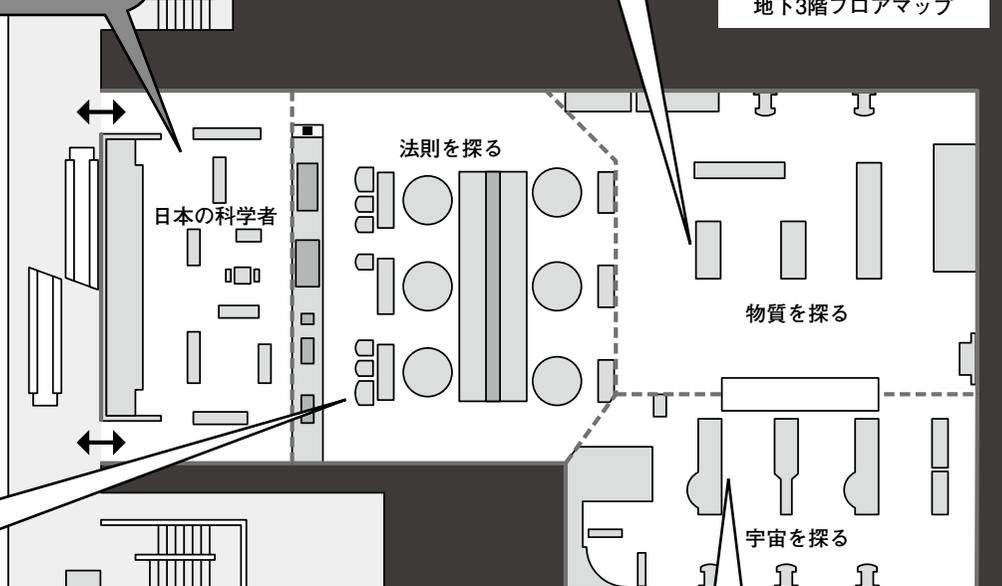
「物質を探る」のゾーンには、周期表や身のまわりにある化学製品など、物質に関わるさまざまな展示物があります。周期表のコーナーでは、放射性元素以外の元素について、右の写真のように、実物を観察できる巨大な周期表があります。また、身のまわりにある物体にどのような元素が含まれるかを紹介した展示情報端末もあり、「物質」が身近に感じられるように工夫されています。



実物が埋め込まれている巨大な周期表

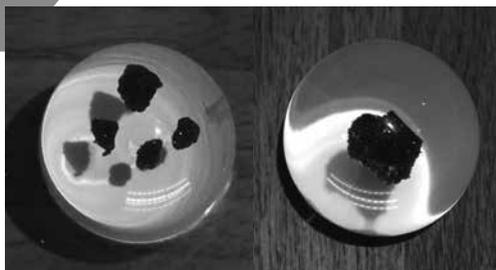
このフロアでとくに人気の展示物です。

日本の科学者  
p.10にて紹介



## 宇宙を探る

「宇宙を探る」のゾーンには、天井まで届くほど大きな天体望遠鏡や放射線の飛跡をはっきりと確認できる霧箱など、宇宙に関わるさまざまな展示物があります。アポロ11号と17号によって採集された月の石も展示されています。アポロ11号が着陸した「静かの海」と17号が着陸した「タウルス山地」は、それぞれ月の「海」と「山」の代表的な場所であり、ここから採集された石を目の当たりにすると、宇宙という未知の世界への興味・関心が高まります。



アポロ11号が採集した石(左)と17号が採集した石

樹脂で包まれ宙に浮いたように展示されているので、さまざまな角度から観察することができます。

## 日本の科学者

科学研究の成果は、日本国内でも日々、新たに生まれています。なかには、ノーベル賞を受賞するような、国際的に高く認められた成果もあります。「日本の科学者」のゾーンでは、自然科学系ノーベル賞受賞者をはじめとした日本の科学者について紹介しているパネルや展示物があります。

### ◆ 科学者の生きざまを知るパネル ◆

科学者について紹介しているパネルでは、生い立ちや研究内容が紹介されています。一般の人が疑問に思うことを中心に、研究内容がわかりやすく解説されているので、科学者がどのような信念をもって研究に取り組んできたのかを知ることができます。また、2015年にニュートリノの研究でノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章博士と感染症の特効薬の開発でノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士についての展示も新設されています。

### ◆ 科学者たちの努力を肌で感じる展示物 ◆

パネルの横には、科学者たちが実際に使用していた実験ノートや、ノーベル賞を受賞するきっかけになった論文のレプリカ、iPS細胞の標本をはじめとする研究成果などが展示されています。これらの展示物を実際に見ることで、科学者たちの努力を肌で感じることができます。

### 取材総括

国立科学博物館には、地球館と日本館があり、さまざまな領域のフロアから構成され、1日では回りまわることができないほど多くの展示物があります。展示パネルによる解説は丁寧でわかりやすく、理科が苦手な生徒でも理科に興味をもつきっかけになるような工夫がされています。館内の各所には「キオスク」というタッチパネル式の展示情報端末があり、展示物についての詳しい解説や動画を楽しむことができるので、生徒だけではなく、先生も十分に楽しむことができる施設だと感じます。

## 博物館情報

(2016年2月現在)



- 所在地  
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20  
TEL : 03-5777-8600 (ハローダイヤル)
- 開館時間  
通常 9:00~17:00 (入館は16:30まで)  
金曜日 9:00~20:00 (入館は19:30まで)
- 休館日  
毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は火曜日)  
年末年始 (12月28日~1月1日)  
くん蒸期間など臨時休館あり。
- 常設展示入館料  
高校生以下, 65歳以上 無料  
一般・大学生 620円  
※団体で利用する場合は事前に登録が必要です。  
(その他詳細は、ホームページをご覧ください。)

中学校教科書準拠

教えやすく、  
学びやすい授業を  
支援します

# 中学校理科 デジタル教科書



指導者用

第1学年～第3学年 全3巻 (学校内フリーライセンス版)

価格

全巻セット価格

各巻 76,000 円+税

216,600 円+税

※同一校内での使用に限り、台数無制限でご利用いただけるライセンスです。

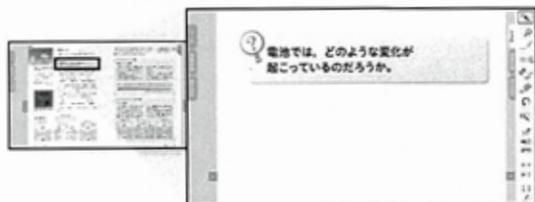
## 特徴 1 直感的で誰にでも使いやすい操作方法

電子黒板での利用を考慮し、指導者が使いやすいデザインを実現しました。ページのめくり、ツールパレットが画面の左右どちらからでも操作可能で、画面下にも表示できます。ペン、拡大機能など、よく使うツールはワンクリックで操作可能です。



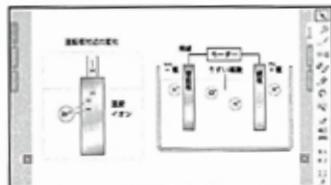
## 特徴 2 見せたいところを自由に拡大して提示

指導ポイントに合わせて、写真や図版などをワンクリックで拡大、授業の焦点化を図ることができます。ダブルクリック拡大、範囲拡大など、指導シーンに合わせて使い分けが可能です。



## 特徴 3 豊富なデジタル教材で理解を深める

紙面には掲載されていない追加の写真や、教科特性に応じた動画、アニメーション、シミュレーションなど多様なコンテンツを収録しました。





第14回

# 地球となかよし メッセージ

## 作品募集 (2016年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!

|           |  |
|-----------|--|
| 応募資格      | 小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)   |
| 応募期間      | 2016年7月1日～9月30日<br>詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。   |
| 作品<br>テーマ | ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み<br>②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること<br>③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと |

前回  
入選作品



### 受け継がれる伝統と心

私は中学校で、かるた部に所属しています。私がかるたを始めたのは小学校四年生の頃です。私はこのときから、かるたが好きです。理由は、男女も年齢も関係なく、平等な立場で試合に立ち向かえるからです。また、いろいろな年代の方と話したり、仲良くなったりできるところも、試合をしている全員が、古くからある百人一首を一生懸命とっている姿も私のお気に入りです。百人一首が現在まで残っているのは、日本人が百人一首を大切にしてきたからだ、私は思います。なので、私も大好きな百人一首をこれから先も残せていけるように、かるたを続けていきたいです。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

**教育出版**

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

中学理科通信 リンク [2016年 春号] 2016年3月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集局  
印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光  
発行所：教育出版株式会社  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)  
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2  
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡E室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411